

オルガノン要約(§ 100~105)

§ 100 流行病や散発的な病気の患者に対してでも、決して病名で判断せず、「現時点での」純粋な全ての症状のみから探求すること。憶測ではなく五感で捉えたことだけから探求しなければならない。誤って病名を付けられることがあるからである。

§ 101 流行病に最初に出くわしたときには、それに適したレメディをすぐに見つけることはできないだろう。しかし、いくつかの症例を厳密に観察すれば、一人か二人の患者を診ただけで真の病的状態を突き止めることから特徴的な症状像を知ることが出来、適切なレメディも見出せる。

§ 102 流行病のレメディは数人以上の患者の症状の総体から導かれる。流行病の原因は同一の発生源を持っている。そのレメディを見つけ出すこと。そして、症状の全体像を元にもっと適したレメディがないか常に探求し、処方しなければならない。

§ 103 マヤズム的な慢性病の場合、非常に多くの人の症状をいっそう厳密に調査しなければ、正しいレメディにたどり着くことはできない。そうしなければ抗プソラのレメディや個々の患者の真のレメディを見つけることはできない。

§ 104 症状の全体像を厳密に描き出し(それは最も困難だが)、自由に症状像を使用できるようにしておけば、特徴的な徴候に合ったレメディを見つけることができる。治療期間中はレメディ投与後に改善せずに残った症状に印をつけ、そこに新しい症状を付け加えていけばよい。

(注)アロパシーの医者は数をこなす事に奔走し、個々の患者からほとんど症状について聞き出さず、メモさえとらず、その作用もよく知らない薬を混ぜて処方したりするため、例外なく失敗する。彼らは「合理的治療師」と呼ばれている。

§ 105 真の治療師の第 2 の仕事:レメディのエネルギーを研究すること。